

# 年次報告書

一般社団法人 国際コンピュータ利用監査教育協会

2021 年 01 月

## はじめに

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症が私たちのこれまでの生活スタイルを根本から変えてしまいました。『New Normal』という言葉が表すように、社会全体に新たな常識が定着しつつあり、企業活動にも相応の対応が求められています。

ICAEA JAPAN は教育を主眼とした活動を行っているため、“人と会って”研修を行う、“人と会って”意見交換を行うなど、“人と会う”ことを前提とした事業が主体となっています。

私は、過去の経験から、オンライン研修は知識の習得にはある一定の効果を得られるが、技能の習得には大きな効果を期待できないと考えていました。しかしながら、“人と会う”ことが困難である以上、対面でなくても研修ができる方法を考える必要に迫られ、改めてオンライン研修を見直すこととなりました。

オンライン研修を導入するにあたっては、先の理由から、画期的な方法を模索する必要がありましたが、試行錯誤の結果、集合研修と同様に講師と受講者の双方向のコミュニケーションを円滑に行える仕組みを導入することで、受講者が一つ一つの疑問を解消しながら、実務に役立つ知識・技能を習得することが可能な研修方法を考案するに至りました。そして、2020 年 5 月からオンライン形式の研修コースを開始しました。

既に 30 名を超えるオンライン研修受講者のアンケート結果から、講師と受講者の双方向コミュニケーションを行うことができるオンライン研修は、集合研修と同等の研修効果が得られることが分かりました。

2021 年度は積極的にオンライン研修を企画し、より多くの人に CAATs に関するノウハウを提供していきたいと考えています。

新型コロナウイルス感染症の影響で研修受講者数および ICCP 受験者数が大幅に落ち込みましたが、オンライン研修を導入したことで全国からの集客が可能になったほか、このノウハウを活かして、2021 年度には ICCP 試験のオンライン化も実現する予定です。また、集合することを前提と考えていた研究会もオンライン開催がベースとなったことで、全国から研究会に参加していただけるようになりました。

新型コロナウイルス感染症により、私たちの事業にマイナス面の影響もありましたが、新しいことへチャレンジするきっかけにもなったと考えています。ICAEA JAPAN は、これからも環境変化に迅速に適応し、CAATs を実務で活用できる専門家(=CAATs 技術者)の育成・支援を行うことで、日常的な従業員不正・誤謬の発見・防止に貢献できるように努力を続けていきます。

2021 年 1 月  
一般社団法人 国際コンピュータ利用監査教育協会  
代表理事 弓場啓司

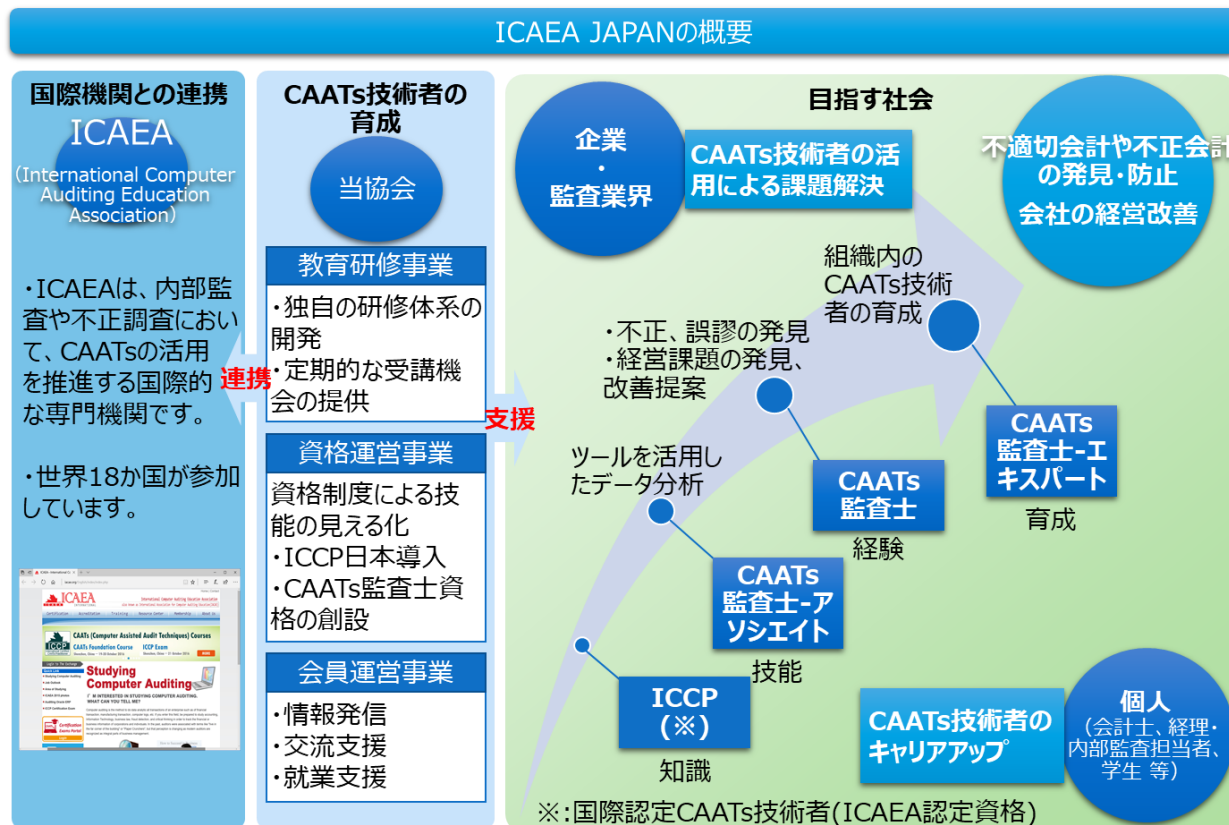
弓場啓司

## 内容

1.ICAEA JAPAN の概要 .....	1
2.役員のご紹介 .....	2
3.顧問のご紹介 .....	3
4.活動内容 .....	4
(1)教育研修 .....	4
(2)資格運営 .....	7
(3)会員運営 .....	8
第 1 回研究会(2019 年 06 月～2019 年 09 月) .....	8
第 2 回研究会(2019 年 11 月～2020 年 02 月) .....	9
第 3 回研究会(2020 年 06 月～2020 年 08 月) .....	10
第 4 回研究会(2020 年 09 月～2020 年 12 月) .....	11

# 1. ICAEA JAPAN の概要

設立の趣旨	ICAEA JAPAN は、CAATs を実務で活用できる専門家(=CAATs 技術者)の育成・支援を行うことで、日常的な不正・誤謬(※2)を発見・防止することに貢献することを目指して設立されました。
-------	--



名 称	一般社団法人国際コンピュータ利用監査教育協会
英 文 名 称	International Computer Auditing Education Association of Japan
略 称	ICAEA JAPAN
所 在 地	〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-5-6 りそな九段ビル 5F
電 話 番 号	03-6268-9756
設 立 年 月 日	2017年9月13日
代 表 者	代表理事 弓場啓司
U R L	<a href="http://www.icaea.org/japan">http://www.icaea.org/japan</a>

## 2.役員のご紹介

代表理事 弓場 啓司（ゆみば けいじ）



公認会計士

三恵ビジネスコンサルティング株式会社  
代表取締役社長  
元 有限責任監査法人トーマツ パートナー

1992年、当時の中央新光監査法人大阪事務所に入所。  
公認会計士として、20年以上にわたり、監査実務でコンピュータ  
利用監査技法を実践。  
その傍ら、監査法人内の情報システムの企画、開発、導入、運用  
業務を行い、海外の提携ファームが開発した監査調書作成支援シ  
ステムの日本導入を主導。  
2007年に有限責任監査法人トーマツに移籍。パートナーとして監  
査法人内の人材育成に携わる。  
2017年、トーマツを退職後、一般社団法人 国際コンピュータ利用  
監査教育協会を設立。代表理事に就任して現在に至る。

理事 松田 道春（まつだ みちはる）



公認会計士、中小企業診断士  
日本証券アナリスト協会認定アナリスト、経営学修士

松田公認会計士事務所 所長  
元 有限責任監査法人トーマツ パートナー

中小企業金融公庫（現 日本政策金融公庫）、青山監査法人、みず  
ほ証券等を経て、2006年に有限責任監査法人トーマツのパートナ  
ーに就任。  
2017年9月にトーマツを退任後、松田公認会計士事務所を開設。  
マニー株式会社取締役、株式会社サイゼリヤ取締役監査等委員、  
株式会社オーブンドア監査役。  
公認会計士として長く法定監査業務、新規株式上場支援業務、  
M&A財務調査・企業価値評価業務、事業承継業務等に携わる。  
会計・税務・ディスクロージャーを中心としつつも、直接金融・間  
接金融の両業界での経験を活かした統合的な業務提供が得意分  
野。

監事 高瀬 亜富（たかせ あとむ）



弁護士  
弁護士法人 内田・鮫島法律事務所 パートナー

2008年弁護士登録（東京弁護士会）。弁護士法人内田・鮫島法律  
事務所所属。  
日々の業務は著作権を中心とする知的財産関連業務及びITビジネス  
に関する各種相談が大半を占めるが、会社経営に伴い必然的に必  
要となる株主総会等の運営、労務問題、資金調達等に関する相談  
についても対応している。  
著書・論文として、『ITビジネスの契約実務』（共著、商事法務、  
2017年）、『ロジスティクス知的財産法Ⅱ 著作権法』  
（共著、信山社、2014年）、「AIと知的財産権（上）（下）」特  
許ニュース14684号、同14685号（2018年）など多数。



### 3.顧問のご紹介

顧問

奥山 章雄（おくやま あきお）



公認会計士、税理士  
奥山会計事務所 所長、日本公認会計士協会 相談役

これまで、日本公認会計士協会の会長、中央青山監査法人の理事長のほか、金融庁顧問、内閣府参与、国立大学法人評価委員会委員、産業再生機構産業再生委員会委員など、数々の公職を歴任し、会計士業界の内外で活躍。  
現在は、自身が経営する会計事務所の所長として、顧問企業の経営を支援するほか、日本公認会計士協会の相談役や上場企業の社外役員などを兼任。

顧問

杉山 高一（すぎやま たかかず）



理学博士  
中央大学名誉教授、統計科学研究所 所長、元日本統計学会 会長

1965年東京理科大学大学院理学研究科修士課程修了。1969年理学博士の学位授与（東京理科大学理学博士第9号）。  
1974年 文科省・統計数理研究所・研究指導普及室長、1980年 中央大学教授、1999年～2003年 中央大学理工学研究科・長などを歴任。  
日本統計学会の理事長、会長を歴任し、2007年に統計科学研究所を設立。現在も統計データ分析・多変量データ解析等の講座を通じて、大学教員や実業界の方々への社会人教育を行い、統計学の研究・普及に努めている。  
研究業績、著書多数。

- ・統計科学研究所：  
<https://statistics.co.jp/index.html>
- ・統計資格認定／検定：  
[https://statistics.co.jp/certification/certify\\_frame.htm](https://statistics.co.jp/certification/certify_frame.htm)
- ・2018年度統計講座ご案内：  
<https://statistics.co.jp/seminar/seminar/2018seminar.html>

顧問

高田 敏文（たかだ としふみ）



博士（経営学）  
東北大学名誉教授、国立中正大学教授、元 日本監査研究学会会長

1979年 東北大学大学院経済学研究科単位取得。2005年 博士（経営学）の学位授与（青山学院大学）。  
1997年～2018年 東北大学経済学部教授、東北大学大学院経済学研究科教授、東北大学理事、教授。  
2018年 東北大学特任教授（教育）、名誉教授。国立中正大学教授。  
日本監査研究学会会長、会計大学院協会理事長、金融庁公認会計士試験委員会委員、金融庁企業会計審議会臨時委員、日本会計研究学会評議員等を歴任。  
学内における教育だけではなく、学外における数多くの学会や委員会等の要職に就くことで、監査の果たすべき役割や機能についての研究・提言に努めている。  
研究業績、著書多数。

## 4.活動内容

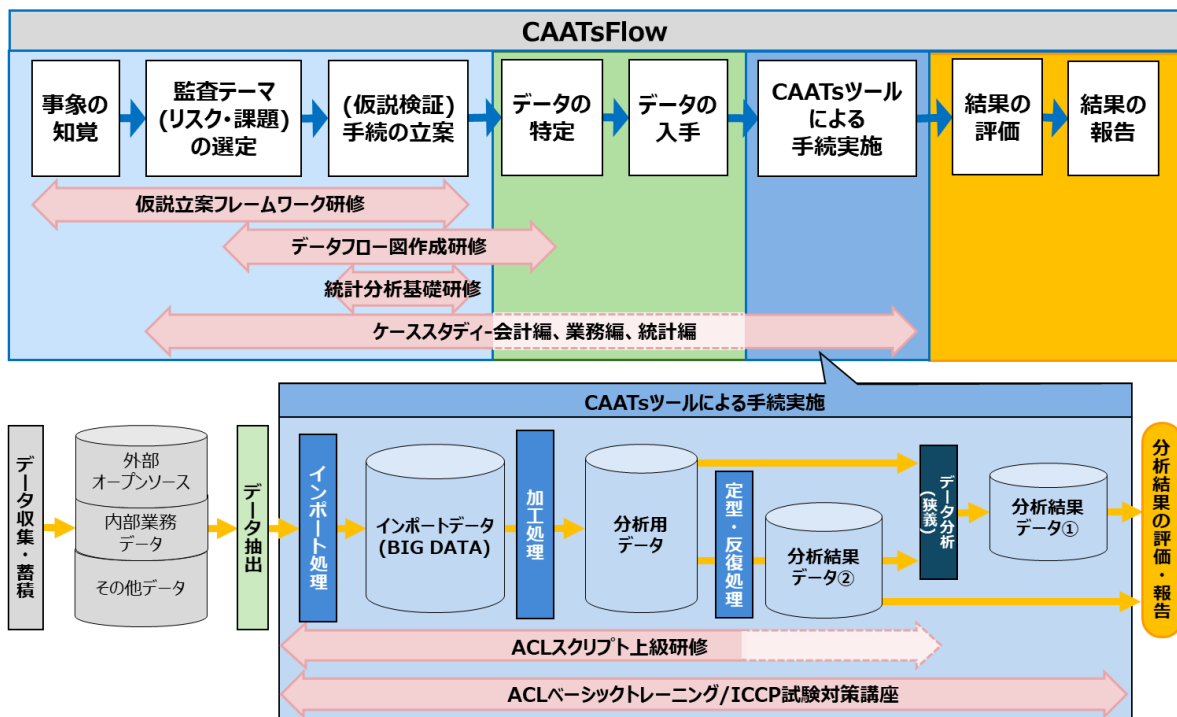
### (1)教育研修

ICAEA JAPAN は、CAATs を実務で活用できる専門家に必要な知識・技能を CAATs Flow(※1)の流れに沿って体系化し、CAATs に必要な技能を下図のとおり『仮説立案技能』、『データ処理・分析技能』、『報告技能』の3つに分類しています。ICAEA JAPAN の教育研修は、この体系に加え CAATs 認定資格と関連付けて研修を企画・開催しています。

CAATsFlow	CAATsに必要な技能	技能の分類	技能の例示
事象の知覚 ↓ 監査テーマ (リスク・課題) の選定 ↓ (仮説検証) 手続の立案 ↓ データの特定 ↓ データの入手 ↓ CAATsツール による 手続実施 ↓ 結果の評価 ↓ 結果の報告	(A) 仮説立案技能 (B) データ処理・分析技能 (C) 報告技能	(A) 仮説立案技能 (B) データ処理・分析技能 (C) 報告技能	◇前提知識 ・仮説立案時にアイデアを出すために必要な知識 会計、監査、内部統制、不正、統計分析手法 等 ◇仮説立案作成フレームワーク ・仮説立案をスムーズに行うために必要な知識・技能 情報収集および整理の技能、考えをまとめる技能 等 ◇データベース ・データ項目を特定するために必要な知識 データベースの知識、ファイル形式の知識、データセキュリティの知識、 データベース設計の技能 等 ◇データの入手 ・データを安全に入手保存し、データの適正性を評価するために必要な知識 データインポートの知識と技能、データ信頼性の検証の知識と技能 等 ◇データ処理及び分析 ・手続実施に必要なデータに加工し、分析するために必要な知識・技能 データ分析ツール、統計分析ツールの操作に関する知識・技能 等 ◇監査結果の効果的な報告 ・監査結果を効果的に報告するために必要な知識・技能 効果的な報告に関する技能 等

※1:CAATs Flow とは、現状分析に基づく監査テーマ(リスク・課題)の選定から、監査手続の立案、実施、結果の報告までの一連の監査の業務プロセスと定義しており、ICAEA JAPAN オリジナルの考え方です。

CAATs Flow と研修コースをマッピングすると、下図のようになります。



各研修コースの概要は下記のとおりです。

研修コース名	研修内容	時間(h)	開催頻度
ACL ベーシックトレーニング (※2)	ACL™ Analytics の基本操作を学習します。	18.0	毎月 1 回以上
ICCP 試験対策講座	ICCP 試験合格に必要な知識・技能を習得できるコースです。2 日目の午後に ICCP 試験を受験していただきます。	研修：9.5 試験：2.0	3 か月に 1 回程度
ACL スクリプト上級研修	ACL のスクリプトを用いて、高度なデータ処理(繰り返し処理、変数を用いた処理、対話型処理等)を行うための技能を学習するコースです。	12.0	3 か月に 1 回程度
仮説立案フレームワーク研修	基準となる前提知識などから監査テーマを立案、監査テーマから(仮説検証)手続を立案するためのフレームワークを学習します。	3.0	3 か月に 1 回程度
データフロー図作成研修	データの流れる見える化するデータフロー図の作成方法を学習します。	3.0	
統計分析基礎研修	データ全体の特徴を統計分析手法を活用して把握し、統計分析手法を監査手続の立案に応用するための基礎となる知識を学習します。	3.0	
CAATs ケーススタディ -会計編	『仕訳テスト』を行うにあたっての留意点の解説とデータを使用した ACL 操作演習を行います。	6.0	3 か月に 1 回程度
CAATs ケーススタディ -業務編	『IT 業務処理統制』の解説とデータを使用した ACL 操作演習を行います。	6.0	
CAATs ケーススタディ -統計分析編	『販売取引における代表的な不正の手口』の解説とデータを使用した ACL 操作演習を行います。	6.0	

※2:Galvanize からの委託により開催している研修コースです。

研修受講実績人数は下表のとおりです。 (単位：人数)

研修名	2019 年度	2020 年度	累計
ACL ベーシックトレーニング	19	51	70
ICCP 試験対策講座	40	6	46
ACL スクリプト上級研修	12	6	18
仮説立案フレームワーク研修	30	14	44
データフロー図作成研修	28	14	42

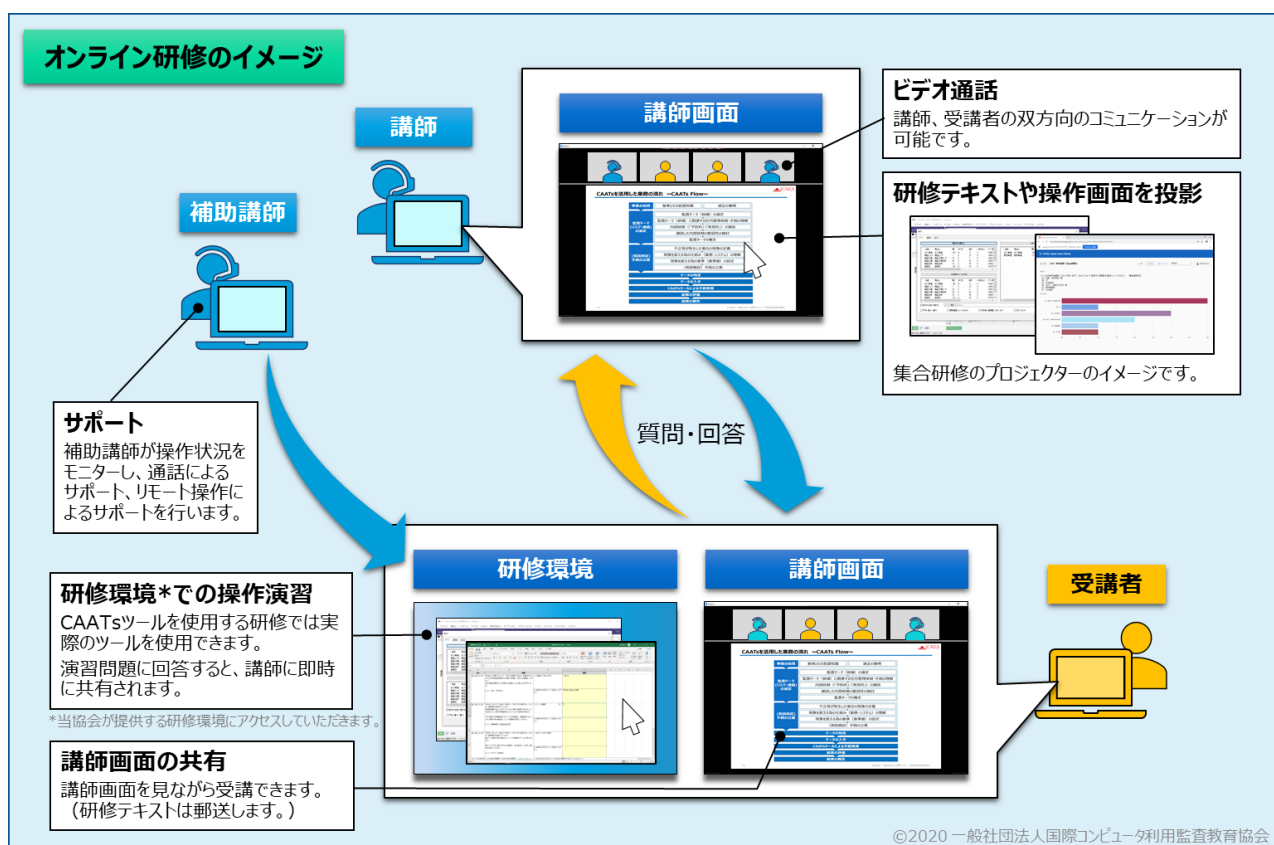


研修名	2019年度	2020年度	累計
統計分析基礎研修	26	14	40
CAATs ケーススタディ-会計編	26	11	37
CAATs ケーススタディ-業務編	22	14	36
CAATs ケーススタディ-統計分析編	25	11	36
合計：	228	141	369

2020年度は ICAEA JAPAN も新型コロナウイルス感染症による大きな影響を受けました。人が集まることへの規制によって対面で研修をすることが難しくなったことに加え、企業業績の悪化などから予算縮減による研修派遣の中止や延期などによって、研修受講者数が大幅に減少してしまいました。

ICAEA JAPAN では、集合研修と同様に講師と研修受講者の双方向コミュニケーションを円滑に行える仕組みを導入することで、研修受講者が一つ一つの疑問を解消しながら、実務に役立つ知識・技能を習得していただけるオンライン研修を2020年5月から運用を始め、コロナがもたらした『New Normal』社会への対応を図っています。

オンライン研修のイメージは下図のとおりです。



## (2)資格運営

ICAEA JAPAN では、下表のとおり、資格ごとに人材イメージと習得すべき主な技能を設定しています。

資格	人材イメージ	主な技能
ICCP(※3) 日本語名： 国際認定 CAATs 技術者	<ul style="list-style-type: none"> <li>CAATs の基本を理解している</li> <li>データを安全に入手保存できる</li> <li>CAATs ツールを利用して手続を実施できる</li> <li>手続の結果を一次評価できる</li> </ul>	(B)データ処理・分析技能
CAATs 監査士-アソシエイト	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスを理解した上で、リスクを特定できる</li> <li>特定したリスクを検証する手続が立案できる</li> <li>手続に必要なデータを特定できる</li> <li>手続の最終結果を評価できる</li> </ul>	(A)仮説立案技能 (B)データ処理・分析技能
CAATs 監査士	<ul style="list-style-type: none"> <li>CAATs の実務経験が豊富にある</li> <li>経営者等に効果的なプレゼンができる</li> </ul>	(A)仮説立案技能 (B)データ処理・分析技能 (C)報告技能
CAATs 監査士-エキスパート	<ul style="list-style-type: none"> <li>CAATs 監査士を育成できる</li> </ul>	(A)仮説立案技能 (B)データ処理・分析技能 (C)報告技能 + 人材育成技能

※3:ICAEA の認定資格であり、International Certified CAATs Practitioner の略です。

認定資格の取得者数は下記のとおりです(2020年12月31日時点)。

取得年	ICCP	CAATs 監査士-アソシエイト
2016	2	—
2017	2	—
2018	41	6
2019	34	10
2020	5	8
総計：	84	24

認定資格者数の減少も新型コロナウイルス感染症の影響によるところが大きいと考えていますが、受験機会が少ないということも原因の一つであると考えています。ICAEA JAPAN では、2021年4月にICCP受験対策テキストを書籍として出版することに加え、オンライン研修で培ったノウハウを活用して、オンラインで受験できる形式を追加して認定資格の受験者数の増加を図る予定です。

### (3) 会員運営

ICAEA JAPAN は、会員の CAATs 技能の向上、CAATs に関する有用な情報の社会への発信を目的として、年に 2 回の研究会を主宰しており、これまで 4 回の研究会が開催されました。

研究会の概要は下記のとおりです。

#### 第 1 回研究会(2019 年 06 月～2019 年 09 月)

テーマ	第三者委員会調査報告書研究
概要	第三者委員会調査報告書を題材にし、不正・誤謬の原因を把握したうえで、CAATs を活用した場合の発見手続について、研究を行う。
座長	一般社団法人国際コンピュータ利用監査教育協会 代表理事 弓場 啓司氏
メンバー (敬称略)	 <p>石橋 裕司(大阪ガス株式会社) 加藤 邦治(株式会社ベネッセホールディングス) 季 文(パナソニック株式会社) 高田 博行(高田公認会計士事務所) 高橋 文博(株式会社ベルシステム 24 ホールディングス) 立川 悟(三菱電機株式会社) 浜田 純二(監査法人 A &amp; A パートナーズ)</p>
成果物	成果物の概要は下記のリンクを参照してください。 <a href="https://www.icaejp.or.jp/files/191106_Reserch01_001.htm">https://www.icaejp.or.jp/files/191106_Reserch01_001.htm</a>

## 第2回研究会(2019年11月~2020年02月)

テーマ	第三者委員会調査報告書研究
概要	第三者委員会調査報告書を題材にし、不正・誤謬の原因を把握したうえで、CAATs を活用した場合の発見手続について、研究を行う。
座長	一般社団法人国際コンピュータ利用監査教育協会 代表理事 弓場 啓司氏
メンバー (敬称略)	 <p>石橋 裕司(大阪ガス株式会社)          甲斐 真一郎(関西大学会計専門職大学院)          加藤 邦治(株式会社ベネッセホールディングス)          清水 幸樹(太陽有限責任監査法人)          高橋 文博(株式会社ベルシステム 24 ホールディングス)          立川 悟(三菱電機株式会社)          徳 健伸(三菱ケミカル株式会社)          中本 尚孝(アーク有限責任監査法人)          西村 大司(太陽有限責任監査法人)</p>
成果物	成果物の概要は下記のリンクを参照してください。 <a href="https://www.icaejp.or.jp/files/200430_Reserch01_002.htm">https://www.icaejp.or.jp/files/200430_Reserch01_002.htm</a>



### 第3回研究会(2020年06月~2020年08月)

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労務監査(サービス残業、在宅ワーク)</li> <li>・監査部と管理部門の役割分担(3つのディフェンスライン)</li> </ul>
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス残業、在宅ワークをテーマに、実例をもとにディスカッションし、監査手続を立案する。</li> <li>・3つのディフェンスラインについて、CAATsを用いたりレーションシップについてディスカッションする。</li> </ul>
座長	株式会社ベルシステム24ホールディングス 内部監査グループ グループマネージャー 高橋 文博氏
メンバー (敬称略)	 <p>天岡 治(株式会社ベルシステム24ホールディングス)          石橋 裕司(大阪ガス株式会社)          甲斐 真一郎(関西大学会計専門職大学院)          加藤 邦治(株式会社ベネッセホールディングス)          佐藤 正志(DCMホームマック株式会社)          徳 健伸(三菱ケミカル株式会社)          東 信昭(富士屋ホテル株式会社)          守能 昇治(大阪ガス株式会社)          上野 哲司(ICAEEA JAPAN)</p>
成果物	成果物の概要は下記のリンクを参照してください。 <a href="https://www.icaejp.or.jp/files/200918_Reserch01_003.htm">https://www.icaejp.or.jp/files/200918_Reserch01_003.htm</a>



#### 第4回研究会(2020年09月~2020年12月)

テーマ	経費、交際費に対する CAATs を活用したデータ分析型監査
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員の経費や交際費に関する不正の手口をディスカッションする。</li> <li>・経費、交際費に関する分析アプローチを立案する。</li> </ul>
座長	一般社団法人国際コンピュータ利用監査教育協会 代表理事 弓場 啓司氏
メンバー (敬称略)	 <p>天岡 治(株式会社ベルシステム24ホールディングス)            石橋 裕司(大阪ガス株式会社)            加藤 邦治(株式会社ベネッセホールディングス)            佐藤 正志(DCMホームマック株式会社)            高橋 文博(株式会社ベルシステム24ホールディングス)            徳 健伸(三菱ケミカル株式会社)            守能 昇治(大阪ガス株式会社)            上野 哲司(ICA EA JAPAN)            他 1 名</p>
成果物	成果物の概要は下記のリンクを参照してください。 <a href="https://www.icaejp.or.jp/files/201224_Reserch01_004.htm">https://www.icaejp.or.jp/files/201224_Reserch01_004.htm</a>



【お問合せ】

一般社団法人 国際コンピュータ利用監査教育協会 (ICAIEA JAPAN)

Mail : [info@icaejp.or.jp](mailto:info@icaejp.or.jp)

URL : <http://www.icae.org/japan>